

# 平成26年度 租税教育に関する研究発表要項

亘理町立亘理小学校

教諭 酒井 久美子

## 1 研究主題

町民の願いを実現するために税金が果たす役割を理解させる指導の工夫  
～「総合的な学習の時間」と6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習との関わりを通して～

## 2 主題設定の理由

児童は、ニュースなどを通じて、東日本大震災からの復興のためなどに税金が使われていることは感じている。しかし、消費税が3%から5%になり、さらに10%になろうとしている今、目の前の自分の財布からより多くのお金が出ていくことに、子供ながら不満をふくらませつつあることもアンケートからうかがい知ることができる。このような時期に、児童に税に対する正しい理解と関心をもたせていくことは大切なことだと考える。

本校6学年の「総合的な学習の時間」のなかに『発見・感動・盛岡のまち』という活動がある。1学期の修学旅行の自主研修では、このテーマから各自の課題を設定し、積極的に盛岡の人々にインタビューしたり、資料の収集に取り組むことができた。2時間の活動時間の間に20名以上の人にインタビューした児童もいた。そうした活動を通して、盛岡の人々の優しさに直に触れることができ大いに感激した児童が多かった。さらには、盛岡の町と自分の住む町を比べて、自分の町を誇りに思う気持ちやより良い町にしていくための意気込みや工夫にも気付くことができた。そんな活動の発展として、自分達の住む亘理町に目を向けた活動を展開していきたい。

亘理町の地域活性化のための取り組みや地域の伝統や文化を継承していく活動など、身近な町民の願いの実現に向けた取り組みを調べる活動は、それを財政面で支える税金の学習への大きな意欲づけになると考えた。

総合学習的な学習との関わりを持たせることが、より社会科「わたしたちの願いを実現する政治」という単元の中の「④税金の働きを調べる」学習での、税金の役割と必要性を調べることにつながると考え、本主題を設定した。

## 3 研究目標

人々の願いを実現するために、税金が重要な働きをしていることを理解できる児童を育成する指導の在り方を探る。

## 4 研究仮説

- ・総合的な学習の時間との関連を図ることによって、紙面上での学習だけでなく、地域の人々との関わりをもつ活動を通して、より身近な問題として興味・関心を高めることができるであろう。
- ・人々の願いを実現するための仕事という視点を持たせることによって、税金のマイナスイメージを克服することができるであろう。

## 5 研究方法

- (1) 児童の税金に関する意識調査を行い、実態を把握する。
- (2) 租税教室で税金の意義や役割についての概要を理解させる。
- (3) 町の人々の願いと税金との関わりへの関心をもとに課題をもたせる。
- (4) 実際に町の人々と関わりながら課題を追究させる。
- (5) 分かったことを新聞形式にまとめ発表させる
- (6) 事後調査を行い、税金に対する意識の変容を考察する。

## 6 研究計画

平成25年度 (5年)	11月	事前調査(1)
	12月	租税教室
	12月	事後調査(1)
平成26年度 (6年)	7月	事前調査(2)
	9～10月	実践授業
	10月	事後調査(2)
	11月	研究のまとめ

## 7 研究の概要

(1) 児童の実態：事前調査(1) 平成25年11月実施

項目1 税金という言葉を知っていますか。

○ある・・・30名      ○ない・・・6名

項目2 税金についてどんなことを知っていますか。

・消費税(23名)    ・所得税(2名)    ・固定資産税  
・車の税    ・増税する    ・お金    ・関税    ・法人税

項目3 税金はどんなことに使われていると思いますか。

・国のため(13名)    ・災害復興(4名)    ・道路や橋を作る(2名)  
・公園(2名)    ・教科書(2名)  
・国の借金返済    ・市町村の予算  
・国の公共事業を進めるためなど国をよりよくするために使う。  
・国のお金になって、みんなのために使われる。  
・震災にあった人に支給    ・生活保護  
・貧しい国のため    ・世界のため

項目4 税金はだれがはらっていますか。

・両親(20名)・国民(7名)・働いている人・何か物を買った人

項目5 税金は必要だと思いますか。その理由も書いてください。

○必要・・・15名  
・国のため(6名)

- ・震災で被害があった所に税金で復興してもらうため。(2名)
- ・震災にあった所に支給しないとだめだから。
- ・税金がないと震災の復興や国の計画が立てられなかつたりするから。
- ・支援するため ・家族のため
- ・日本は国の借金が多いから。
- ・世界で困っている人のために。(病気の人)

○どちらかといえば必要・・・14名

- ・国のために必要なものを作っているのだから必要だと思うけど、本当に必要なものをその税金で作っているのか心配。
- ・税金のことはあまりわからないが、みんなのためにやっている事だったら必要だと思う。
- ・国がやらないといけないことにはお金がかかるから。
- ・国のために使うから。

○必要ない・・・7名

- ・何に使われているかわからないから。(3名)
- ・お金がもったいないから。
- ・税金が高いから。
- ・物が高くなるから。
- ・みんなが困っているから。

**項目6 税金についてどんなことを学習・調べたいと思いますか。**

- ・税金の使い道。(12名)
- ・消費税のほかにどんな税があるか。(8名)
- ・税金のしくみ(なぜ税金があるのか)(5名)
- ・消費税が5%から8%に上がったなら、どういうところが不便になり、どういうところで便利になるか。
- ・払う金額には格差があるのか。

[考察]

税金イコール「消費税」という考え方が多かったが、震災復興のニュースに触れているので、税金は「震災復興のために」というイメージを持っている児童も多い。税金は必要ないと回答した児童の大半は、税金の使われ方等についての知識がほとんどないためである。税金の使い道などについて学習することで、税金の必要性を理解することができると思う。しかし、「本当に必要なことに使われているのか」という考え方は、今後の社会科の学習との関わり方として、ぜひ身に付けさせたい考え方である。

(2) 指導計画 (8時間扱い：内2時間は5年生の時に実施)

段階	主な学習活動	時間
事前調査(1)	・税金に対する、意識調査に取り組む。	1/2
①租税教室	・税金についての興味・関心をもち、税金の必要性を理解する。	1
②事後調査(1)	・租税教室を振り返っての意識調査に取り組む。	1/2
③事前調査(2)	・6年生になって、社会科で歴史を学んでみての税に関する意識調査に取り組む。	1/2
④税金について話し合おう	・「わたしたちのくらしと税金」の資料等を使って、税金に対する興味・関心を高める。	1
⑤税金について調べよう	・課題を設定し、新聞にまとめる。 (インタビュー等の活動)	3
⑥調べたことを伝えよう	・新聞をもとに、調べたことを発表する。	1
⑦事後調査(2)	・税金に対する、事後調査に取り組む。	1/2

(3) 実践の概要

①【租税教室】 平成25年12月2日 (5年生)

[ねらい]

- ・税についての興味・関心をもてるようにする。
- ・税金の必要性が理解できるようにする。

[内容]

- ・DVD「税金がなくなったら」
- ・みんなが払っている税金
- ・国の予算
- ・税金でつくられる物
- ・もし税金がなかったら
- ・納税の義務
- ・1億円のレプリカを使っての1億円の重さ体験

[児童の様子]

5年生の12月2日に税理士の原先生に来ていただき、学年全体でお話をしていただいた。DVDは、もし税金がなくなったら生活がどんなに不便になるかという内容で、興味深く見入っていた。その後の税理士先生の講話では、3学級一斉の授業ではあったが、熱心にメモを取りながら話を聞き、税金の必要性を理解することができた。

～児童の感想～

- ・税金がなかったら、道路とかが壊れたままで不便になってしまうことが分かった。
- ・税金がなかったら、町にゴミがあふれてしまったりして、町の人が困ってしまうことが分かった。
- ・税金はいらないと思っていたが、もし税金がなかったら、人々が豊かに暮らせないことが分かって、税金って必要なのだなと思った。



- ② 事後調査（１） 平成２５年１２月 （５年生）
- ③ 事前調査（２） 平成２６年 ７月 （６年生）

５年生の１２月に税理士さんをお迎えしての「租税教室」で学んだにもかかわらず、「税金がどんなことに使われているか」をすっかり忘れていた児童が半分近くいた。また、「税金が必要か」という問いに対しては、昨年の租税教室後のアンケートで全員が必要と答えていたのに、６年生の７月のアンケートでは、１０名の児童が必要ないと解答していた。

理由としては、３つ傾向が見られた。①社会科（歴史）で昔の重い税のために苦しんだ人々のことを学んだ事によるマイナスイメージが強い。②消費税が５％から８％に上がりさらに１０％に上がろうとしている情勢に対する不満・不安。③「租税教室」で学んだとはいえ、１時間だけの学習で、税の大切さが分かったつもりにはなったが、実感できていなかったために必要性も薄れてしまっている。身近な亶理町に目を向けさせることと町の人にインタビューするなど、自分で行動し学び取る活動の必要性を感じた。

#### ④【税金について話し合おう】

[ねらい]

- ・「わたしたちの暮らしと税金」の資料等を使って、税金に対する興味・関心を高める。

[内容]

- ・いただいたリーフレットを活用して、身近な生活と税金との関わりについて学んだ。クイズ形式で学習を進められるように工夫されているので、児童も楽しみながら学習に取り組むことができた。特に一番身近な「学校で使われている税金」のページの内容には、興味を示し、もっと調べてみたいという意欲を高めることができた。
- ・「まちのなかで使われている税金」のページでは、総合的な学習の時間で取り組んでいる「成実ばやし」と関わらせて、話題をふくらませていった。

[児童の様子・話し合い]

- ・総合的な学習の時間で「亘理小学校の伝統を引き継ごう～成実ばやしを引き継ごう～」という活動にも取り組んでいるので、そのこととも関連して考える児童もいた。

「どうすれば荒浜の祭りが復活して、また成実ばやしを町の人たちも踊れるようになるんだろう。」

「まずは荒浜の港の復興など、亘理の町全体の復興が進まない」と

「でも夏に花火を上げたりして町のお祭りを盛り上げようと頑張っている人達もいるよね」

「そういうお祭りを開くための費用はどうしているのかな。税金が使われているのかな。」

- ・そんな経過から、町の「商工観光課」の方へのインタビューへと活動が広がった。(時間の都合で児童が行けなくなり担任が代表で行くこととなった。)担当の方の「亘理町をこんな町にしたい」という思いを聞くこともできた。
- ・インタビューの報告を受けて、特に観光に関わる面での話し合いを持った。「商工観光課」の方の「亘理町は、海もあり山もある自然に恵まれた土地。はらこめしやいちごなどをメインに打ち出した観光の町にしていきたい」といった内容を受けて、「鳥の海温泉」や「鳥の海ふれあい市場」などのピーアールについての意見もでてきた。早く「荒浜(亘理)のまつり」が復活して、「成実ばやし」をみんなで踊れるようになったらいいな。「そのためにも、亘理小学校の伝統として、しっかり成実ばやしを引き継いでいこう。」といった話の展開となった。

まとめとして、「成実ばやし」の講師の先生方へのインタビューや「商工観光課」の方へのインタビューから感じた「亘理町をこんな町にしたい」「亘理町でこんなことをしたい」といった思いを確認した。その実現のために使われているのが税金だということで、税金の大切さを身近に感じられるよう配慮した。

①「元祖はらこめし満腹スタンプラリー」の取組みについて

- ・発足のきっかけ

平成20年に実施された観光キャンペーン「仙台・宮城観光キャンペーン」にあわせて新規事業として、亶理町観光協会が立ち上げた。初年度の参加事業者は19店舗。

- ・この企画を実施するうえでの経済的な援助について

初年度の平成20年度については、実施した新規観光事業推進補助金を活用した。補助額73,000円。当時の予算額は146,850円。

今年度の平成26年度については、マップ・チラシ印刷代や景品購入代等で225,000円を予算化している。

②亶理町の夏まつりの復活について

- ・今後の見通しについて

震災以後、追悼供養行事として灯籠流しのみ、亶理町観光協会や荒浜地区まちづくり協議会が協同で開催してきた。

そして今年度は「わたりふるさと夏の夕べ」と題して、灯籠流しの他に、要望が多かった花火打ち上げを震災後初めて実施した。

来年度以降について、夏まつりを実施するかどうかは観光協会の理事会・総会を経て決定されるが、荒浜地区の復旧工事の進捗状況も鑑みなければならないので、開催については不透明である。また、実施するにしても、山車のパレードといった催しは出来ないものと思われる。

予算については、観光協会の会員からいただく会費と、町からの補助金（22年度は820万円補助）で運営している（今年度開催した「わたりふるさと夏の夕べ」も同様の形態で事業を実施。事業費総額750万、町からの補助額250万）。

③望むこと、アドバイス

- ・成実ばやしの継承
- ・若い目線で町の今後の観光資源洗い出し、新規発掘



宮城県亶理町 商工観光課





## ⑤【税金について調べよう】

〔ねらい〕

- ・税金について課題を設定し、調べ、新聞にまとめる活動を通して税に関する理解を深める。

〔内容〕

- ・課題を設定する。
- ・インターネットで調べたり地域の人へのインタビューをして、自分の課題について調べ学習を進める。
- ・「くらしと税金」のリーフレットや図書室の本なども使って調べ学習を進める。
- ・調べたことを新聞の形式にまとめる。

〔児童の様子〕

個人差が大きいので、作業時の不安を取り除くために2～3人のグループを作って調べ学習に入らせた。資料の共有や相談しながら楽しく調べ学習を進めることができた。いただいた「わたしたちのくらしと税金」のリーフレットは、資料も分かりやすく、見出しの付け方やレイアウトなどに大いに役立てていた。ただ、地域の方々との関わりまで新聞に盛り込むことはできなかった。





⑥【調べたことを伝えよう】

[ねらい]

- ・調べたことを発表して、情報を共有する。

[内容]

- ・廊下に掲示する。
- ・お互いに見合い、感想を交流する。

児童の様子～感想より～]

歴史の好きな児童は歴史的な観点からまとめ「これから税のしくみも時代とともに変わっていくと思います。しかし、税は時代が変わってもなくてはならないものです。」「その時代に起こった出来事により作られた税があることを知ってびっくりしました。特に戦争で使うお金の調達のための税があり～中略～これからの税はよく考えて使うべきだと思います。」などといった感想を書いていた。

つたない文章ながら次のような感想もあった。

「税金はみんなのために使われていて、災害復旧のためにも税金が使われていて安心できます。救急車とかも税金で、生活が便利になるように使われていることが分かりました。それから未来のための科学技術などにも使われていて、未来が楽しみです。でも税金を取り過ぎるのもだめかもしれません。税金はいいところがあるけど、だめなところもあるかもしれません。」

調べ学習をしたことに対する、自分なりの感想や考えから、これからも税に関して（政治のあり方に関して）、興味を持って関わっていこうという心構えが感じられた。













(4) 児童の実態：事後調査（2） 平成26年10月実施

項目5 税金は必要だと思いますか。その理由もかいてください。

○必要・・・19名（事前調査・・・15名）

- ・税金はみんなの暮らしをよりよくするために使われるから。
- ・よりよい日本をつくるため。
- ・国の金がなくなるから。
- ・税金があるから今のような便利な生活ができているから。
- ・税金がないと、町を整備できないから。
- ・税金がないと、災害になった時に困るから。
- ・税金がないと、いざという時に救急車を呼べないから。
- ・税金がないと、道路や横断歩道などが作れないから。
- ・税金がなかったら、信号を渡る時もお金を払わないといけないから。
- ・税金がないと、自分たちの生活が成り立たないから。
- ・税金がないと、教科書なども買わないといけなくなり、生活が苦しくなるから。
- ・国の借金を減らし返済するためや、教科書などを買うお金を補うため。
- ・町の人々の夢を実現するため。

○どちらかといえば必要・・・17名（事前調査・・・14名）

- ・税金がないと、教科書などを自分のお金で払わないといけないから。
- ・国の道路などがないと大変だから。
- ・みんなのために使われる税金だから。
- ・税金がないと学校に行けなくなるから。
- ・税金がないと、災害復興や壊れた物を直す事ができないから。
- ・おじいちゃんの介護やいろんなことに使われているから。

○必要ない・・・0名（事前調査・・・7名）

項目6 税金の学習は必要だと思いますか。その理由も書いてください。

○必要・・・15名

- ・税金の学習がなければ、税金の大切さが分からないから。
- ・税金の大切さ、重要さを知らないと、将来大人になったとき困るから。
- ・税金は必要だと分かってもらうため。

○どちらかという必要・・・21名

- ・大人になって税を払うとき苦労するから。
- ・世の中のしくみを知るためだから。
- ・税金の使い方や大切さが分かるから。

○必要ない・・・0名

〔考察〕

税金の有用性について具体的にとらえている児童が増えたことが分かる。税金が自分達の生活にとって必要なものであるという認識が高まったことがうかがえる。

## 8 研究の成果と今後の課題

### 【成果】

- ・租税教室で税理士さんという専門の方からお話を聞いたことが、児童の興味関心を引き出していた。また、DVDの内容も身近な生活の場面が取り上げられており、児童にとって分かりやすくかつ印象的であった。児童の興味を喚起するうえで大変効果的であった。
- ・「総合的な学習の時間」との関わりを持たせることにより時間の確保ができた。本来6年社会科での「税金の働きを調べる」学習への配当時数はたった1時間である。しかし、総合的な学習の時間の内容の発展ということで時数確保や地域の方々との関わりをもたせることができた。

### 【課題】

- ・「総合的な学習の時間」との関わりを持たせるにあたっては、校内でも統一された実践ではない。今回の実践をもとにして学校としての総合学習の体系をしっかりと話し合い、作り上げていく必要がある。また、地域の方々とも連携して、児童がもっと地域の活性化のためにできることを発信していく場の工夫などもしていく必要がある。
- ・今回「総合的な学習の時間」との関わりで、「成実ばやし」の講師の先生方へのインタビューや役場の方との関わりなどをもつことができたが、その結果をまとめた新聞に反映させるところまではできなかった。税金に関わる内容だけで終わってしまったので、11月以降の「総合的な学習の時間」の「5年生への引継ぎ」の活動の中に生かしていきたい。「5年生へ引き継ぐ」ために、更に地域の方々の思いや願いに触れ、自分達の願いや夢も膨らませていければと考えている。